

12月7日 うみべのもり保育所の公開保育を実施しました

うみべのもり保育所において公開保育を実施し、神戸大学大学院准教授 北野幸子先生に指導・助言をしていただきました。

乳児クラスでは、安心できる保育者のもと、ゆったりとした時間の中で、好きな遊びを思う存分楽しむ子ども達の姿がみられました。室内には手作りの玩具がたくさんあり、あたたかい雰囲気が感じられるとともに、年齢発達に合わせ、ねらいを持った環境構成がなされていました。

遊戯室では、一昨年の5歳児がきっかけとなり始まったコンサートごっこを引き継ぎ、3・4・5歳児が関わりながら、自分達で作上げた思い思いのコンサートを楽しむ姿が見られました。子どもの興味・関心から始まるお店屋さんではバラエティ豊かでリアリティがあり、小道具や食材の一つ一つにも、子ども達がアイデアを出し考えていることがうかがえました。

参加園

- | | |
|---------|---------|
| 永福保育園 | 池内幼稚園 |
| 岡田保育園 | 倉梯幼稚園 |
| さくら保育園 | シオン幼稚園 |
| 相愛保育園 | 中舞鶴幼稚園 |
| タンポポハウス | 舞鶴幼稚園 |
| 東山保育園 | |
| 八雲保育園 | 大浦小学校 |
| 中保育所 | 倉梯小学校 |
| 西乳児保育所 | 志楽小学校 |
| | (※50音順) |

【公開保育テーマ】

子どもの主体性を育む保育を目指し、乳児期には、安心できる保育者との愛着・信頼関係を築くために応答的な関わりを大切にしている。幼児期はそれを基盤に、子どもが興味・関心を起点にして遊びを広げ、より深く考えたり、探究したりできるように環境を構成し関わっている。その中で得た様々な発見や気づきを保育者や友だちと共有し、次の遊びへとつなげている。

【公開保育の視点】

安心できる保育者のもとで好きな遊びを選び楽しんだり、年齢なりに自分の思いを行動、表情、言葉などで表現しようとしていたりする姿や、興味・関心を起点に遊びを広げ、考え工夫する中で様々な発見をしたり、友だちや保育者に伝え合ったりしている姿を見とってほしい。その中で、保育者は、子どもが主体的に遊び込める環境を構成し、関わっているかを見とってほしい。



公開保育

発達を踏まえ、これがあると遊びが発展し、学び・育ちへとつながるだろうという視点を持ち教材開発をすることが大切
～北野先生 コメントより～



【0歳児】

室内には、つまむ・ひっぱる・ねじるなどの手指を使った遊びが楽しめるような玩具や、戸板滑り台やマットの山など、体を使った遊びが十分楽しめる環境設定がなされていました。ゆったりとした雰囲気の中、保育者とポットン落としやままごとを楽しみ、保育者との応答的なやりとりの中で安心して遊ぶ姿が見られました。



【1歳児】

体を使った遊びが楽しめるよう、環境が整えられた室内では、鉄棒にぶら下がったり、マットの山によじ登ったりと、思いきり体を動かして楽しむ姿が見られました。ままごとのコーナーには、手作りの冷蔵庫や洗濯機、人形のベッドなどの玩具が置かれ、子どもが模倣して遊ぶことを存分に楽しめるような環境構成がなされていました。

【北野先生 コメント】

- ◎保育者の顔を見たり、手を広げたりして子ども達がコミュニケーションを図ろうとしており、いい信頼関係が築けている。
- ◎色、形、音、動き、引っぱる、触る経験などイメージできるものがたくさんあるのがよい。

【北野先生 コメント】

- ◎パズル・ポットン落としなどのコーナーは、壁に向かって机が設置してありよかった。向かうところがあると集中できる。
- ◎子どもの表情が豊かでよい動きをしている。
- ◎手作り玩具は、色を変えたり、グラデーションを作ったり、細かく工夫して作っている。保育者が教材研究を楽しんでやっているのがわかる。

【2歳児】

室内には、ごっこ遊びが十分に楽しめるように、お家や手作りのお風呂、パン屋さんやお寿司屋さんなど、子ども達の生活や経験とつなげながら再現したり、見立て遊びが楽しめるような環境が整えられていました。お面をつけ、なりたいものになりきったり、保育者や友だちとやりとりしながらごっこ遊びを楽しむ姿が見られました。



【3歳児】

製作遊びのコーナーには、様々な素材や自然物が置かれ、作りたいと思う子どもが作りたい時に製作のコーナーに来て、友だちに刺激を受けたり時には保育者にヒントをもらいながら、自分で考えたり工夫しながら、思い思いの作品作りを楽しんでいました。子どもの興味・関心から始まったお医者さんごっこのコーナーでは、ベッド、白衣、レントゲン写真、注射器などイメージを膨らませることができる小道具や環境があり、友だちと関わりながら、再現遊びを楽しむ姿が見られました。



【北野先生 コメント】

- ◎子どもの発達を踏まえた教材研究と環境構成がなされている。これがあると遊びが発展し、学び・育ちへとつながるだろうという視点を持ち教材開発をすることが大切だと考える。
- ◎保育者のなりきり具合が素晴らしく表情がよい。
- ◎子ども達がそれぞれに自己発揮する姿が見られた。

【北野先生 コメント】

- ◎製作遊びは、一つ一つ保育者の指示でやっていないことが大事。とても集中して取り組んでいる。
- ◎お医者さんごっこは患者さんのリアリティがあり、病人を演じきっている。お医者さんも一生懸命治療している。それらが発揮できる環境や空間、教材があることが大切ではないか。

(つづき)

待たされる指導ではなく、目的があり見通しを持って待つという経験の積み重ねが大事
～北野先生 コメントより～

【～コンサートごっこ～遊戯室】

一昨年の5歳児の一言がきっかけで始まったコンサートごっこは、その年ごとに形を変えながら引き継がれています。舞台の上では5歳児が踊りのフォーメーションを皆で相談する姿や、司会役の子どもが臨機応変に進行や解説をする姿など、自分達で考え工夫したり決めたりする様子が見られました。ステージ下では5歳児に憧れて踊る3歳児や、次は自分達も踊るんだという期待を持ちながら舞台の脇で見ている2歳児の姿もありました。



【～お店屋さんごっこ～遊戯室】

コンサート会場では、ラーメンやお味噌汁、クッキー、ジュースなど、子どもの興味・関心から始まった数々のお店が並んでいました。丁寧に作られた割り箸や、まるで本物のようなクッキーなどは、子ども達自身が考え工夫を凝らし、細部にまでこだわって作られたことがうかがえました。それらの小道具や食材があることによって、ごっこ遊びが豊かなものになっていると感じられました。



【北野先生 コメント】

◎全部自分達で決めていて、やらされている感がない。子ども同士のコミュニケーションが取れており、頻繁にコンサートごっこをやっているのがわかる。

◎音楽が流れないハプニングがあっても、自分達で考えて状況判断をし、臨機応変に対応している。

◎自分の順番がある、とわかって待っている子どもは、待たされるのではなく、「待ちたい」という見通しを持つ。順番に出てきて「座って見ましょう」というのでは、こういう待ち方はできないのではないか。目的があり、見通しを持って待つという経験の積み重ねが大事ではないか。

【北野先生 コメント】

◎紙粘土で作ってある食材は、かわいくてリアリティがある。子どもがよく考えて作っているのがわかる。

◎保育者が楽しんで、教材研究をしているのがわかる。

◎子どものイメージの共有には媒体がいる。その媒体により子ども同士をつなげようと、保育者が準備しているのがよくわかる。

◎リアリティのあるごっこ遊びが展開できている。

◎お味噌汁屋さんでは、「お椀の数が足りないからしっかり洗わなければいけない。」と丁寧に洗う子どもがいた。そうやって考える力へとつながっていくと思わ

【環境】保育室や廊下などのいたるところに、自然物をふんだんに使った子ども達の作品が置かれていました。どれを見ても同じ物はなく、子ども達一人一人が、「こんな物を作りたい」という思いを持ち、考えたり工夫をしたりして作った物だということが感じられました。



【北野先生 コメント】

◎子どもと一緒に壁面や教材を作っていて、いろいろな所に子どもが育てた野菜やドキュメンテーションがある。人工的な物ではなく、子どもと一緒に空間を構成しており、保育者が作ろうとして作っている。子どもの主体性は保育者の主体性でもあ



グループワーク

公開保育後に参加者同士で保育を語るグループワークを実施しています。①保育の視点にもとづいて記録した子どもの姿で印象に残ったことや、公開保育を見てどう感じたか、感想、質問など、②子どもを主体とした保育を実践するために自園では何が必要か、課題は何かについて協議をしました。それぞれのグループで話し合われたことを報告し、公開園の先生や北野先生への質問も出されました。

【グループワーク報告】

◎3・4歳児が5歳児に憧れてコンサートの様子を見たり、5歳児が3・4歳児にやり方などを教えている姿などから、縦のつながりを見ることができた。

◎保育者が子どもの思いを受けとめ、一人一人が満足し、満たされている遊びをしていた。

◎物的環境がしっかりしていて、子ども自身が「これしたい」という思いを持っていると感じた。

◎ごっこ遊び、お店屋さんなどがいくつもあり、クラスだけで流行っている状態ではなく、遊戯室でみんなが関わり、異年齢での遊びの場が充実していた。

◎乳児クラスでは、人形をトントンしたり、人形に話しかけながら寝かしつけをしようとする姿があり、普段から保育者に温かく

関わってもらっていることが感じられた。

◎片付けの場面では色分けや数が書いて

あり、子どもが見てわかるようにしてあり、自園でも参考にしたいと思った。

(質問)

◎この年齢のこの時期にこの活動を取り入れたい、この遊びをしたという経験があるからこそ、大きくなってからの主体的な遊びにつながっているのではと感じている。主体性を尊重することは大事だが、その時期に経験したいことを、設定の時間として経験する時間は必要ではないか？設定保育と主体性を尊重することとバランスよくやっていくためにはどうしたらよいか？



(北野先生回答)

◎主体性の尊重と設定保育について、どちらが良いか悪いかではなく、どちらが子どもの学び・育ち・集中・没頭・発見があるかを考えることが大切だと思う。

◎保育の形態の表面的なところではなく、子どもの主体的な学び・育ちが育まれているかと言うことをしっかり考えることが大切ではないか。

◎自由遊びの場面で、学びや育ちがないとただの放任になる。

◎設定保育をたくさんしたら、豊かな経験が得られるのかと言えば、そうではない。与えられたものをこなしているだけでは豊かな経験にはならないのではないか。



カンファレンス 溝邊 和成先生

保育者の考えていることと、子どもの姿とのずれはなかったかを振り返り、実践に役に立つようにしていくことで、カリキュラムが充実するのではないか

～溝邊先生指導・助言より～

保幼小接続カリキュラム策定検討会議会長の兵庫教育大学大学院教授 溝邊和成先生がご参加くださり、ご指導いただきました。

◎公開されている先生や、見ている側の先生が子どもの様子に見入っているのがいいなと思った。だからこそカンファレンスが充実するのではないか。

◎子どもの様子を見る時に、自分が何を来たのかということや、感じたことを近くにいる先生とその場で話してみてもはどうだろうか。

【ごっこ遊び】

◎今回、いろいろなごっこ遊びがあった。ごっこ遊び(お店屋さん)の完成度が素晴らしく、しっかり遊び込めていた。



◎お店屋さんごっこのお店の品物がよかった。子どもの自慢のような動きがみれた。
◎お客さんが来ても十分な対応を

していた。保育者の見えないところの働きかけがそうさせているのではないかと考える。

◎品物がすぐ本物に近く、ごっこ遊びという言葉でつづつてもよいのかと感じた。

◎子どもが模倣してやっていることは、模倣しながら社会の機能を学んでいるのではないだろうか考える。だから道具や食材はリアリティのあるものがよい。

◎病院ごっこは見ただけで子どもが本気で遊んでいる様子を感じられ、お医者さん役や患者役の子どもにも本物らしさが伺えた。

【外遊び】

◎砂場で穴を掘っていたが、穴も作品と同じで、子どもの思考の表れではないかと考える。穴の大きさ、深さ、形、水が入っているかないかなど、そのものが思考の結果であり、作品(対象)そのものを含めて、子どもの姿を捉えようと感じた。



【環境】

◎遊戯室のオープン性が良いと感じた。どこからでもいつでも遊びに入れる。いきなり入っても異年齢の子ども同士の遊びが成立する。

◎片づけは、子ども自身が次の遊びの準備をするための環境作りをしているのではないだろうか。これを促す保育者の言葉があれば片づけがもっと進むかもしれない。



【カリキュラム】

◎ドキュメンテーションの写真をみると、保育者は子どもばかりではなく、環境も含めたアングルで撮っている。写真を提示し、何が学びか、何を学んだのかをつづる記録を書いていることが大事ではないか。

◎単に書いて終わりの指導案は終わりにしなければならないと考える。指導案を振り返り記録として残す。

◎保育者の考えていることと、子どもの姿とのずれはなかったかを振り返り、実践に役に立つようにしていくことで、カリキュラムが充実するのではないか。

カンファレンス 北野 幸子先生

実践中に自分の保育を振り返り、修正したりする力が大事

～北野先生指導・助言より～



◎先生達の表情がよく、楽しそうだった。

◎子ども達はそれぞれに自己発揮する姿があった。支援

の必要な子どもがたくさんいるけど、それを感じさせなかった。

◎所長が環境構成も含め保育を理解している。子どもの姿の話や実践の中身のある話がある。これが同僚性につながる。

【環境】

◎昨年の課題にあった、共有の場としてのホールの使い方や、目線の妨げにならないような棚の配置など、全てにおいて改善が見られた。

◎とっさにそろえた教材ではなく、子どもの姿を見て一緒に考え、発達の視点があって教材開発をしていることが感じられる。

◎子どもの発見や疑問や活動したことが壁に貼ってあり、子どもと作る保育環境が素敵。

◎集団保育の醍醐味は多様性に対する寛容性。こんな見方もある、こんなものも良いということを感じられる環境構成が大事ではないか。

◎大切にしたいことは没頭・探求につながる環境や援助であると考え。

【自由遊びの時間と一斉活動の時間のあり方について】

◎主体性の尊重と設定保育について、どちらの中にどんな育ちがあり、どちらにどんな課題があるのかを考えることが大切ではないか。

◎設定保育のような環境よりも、2・3歳児にとって憧れや見本になる環境がある緩やかな異年齢活動のほうが、年下の子どもの学び・育ちがある意味期待されるのかもしれない。

◎同年齢の時と異年齢の時に見られる姿は違う。話し合いの場面などでは、ある程度の目的や思考、コミュニケーション、話し合いの時の創意工夫や質など、同年齢でなければそのレベルが明らかに違う。

◎異年齢の場合、緩やかな縦割りの時の遊びの場面では、年上の子どもに対する憧れや、年下の子どもに見せてあげよう、教えてあげようとする気持ちが、見られるのかもしれない。

【片付け】

◎充実・没頭・育ち・学びが多いことが、子どもの意欲、意識を高くする。何のために片づけるのかなど、次の見通しを持つことが大切。遊び込んだ子どもは、片づけにも主体的に取り組めるのではないか。

【振り返り】

◎保育者に話すのではなく、みんなと共有する意識が子ども達にあり、手を上げたり立ったりしなくても友だちの話が聞けていた。

◎石鹸を泡立てたボールを皆に回していた。実物を見せていたのが良かった。

◎「100点満点」と言ってしまった時の保育者の表情から、今の発言は良くなかったと感じている様子が見えた。実践した後の振り返りも大事だが、実践中に自分の保育を振り返り、修正したりする力が大事だと考える。

【10の姿のドキュメンテーション】

◎一人一人の保育者が、一つ一つの保育について構造化し、質の向上や教育課程の適正化を図っている。これを保護者へ発信することが大事であり、これこそがカリキュラムマネジメントではないか。

